

三河新報

三河新報社
発行所 西尾市花ノ木町2-15
TEL(56)30336
FAX(57)00003
T 445-0852
E-mail:shinpo@katchi.ne.jp
日刊(月曜3日除く) 定休日(日)

水のある豊かな環境づくりを提案する
排水水空間の設計および施工・メンテナンス
辻村工業株式会社
本社 西尾市桜町中新田62
TEL 0569-574124

3月9日(火) 祝
日の出=6:11
日の入=17:55
満潮=4:19 15:02
干潮=9:50 21:59
(名古屋標準)

“開の日”
☆記念切手
1894(明治27年) 日
本初の記念切手が発
行された

中世西尾 吉良氏 800年



4月11日メモリアルイベント

渡部さん×一色高 立体書共演

小和田氏の歴史講演会

中世の西尾を治めた吉良氏を顕彰する「吉良氏800年祭」のメモリアルイベントが4月11日午後2時から、西尾市文化会館大ホールで行われる。第1部で西尾城の御城印を手掛けた書家・渡部裕子さんと県立一色高校和太鼓部による立体書道パフォーマンス、第2部でNHK大河ドラマの時代考証で知られる小和田哲男静岡大学名誉教授の講演会がある。

2021年は、中世のきつがけになった承久の顕彰しよう、吉良公吉良荘(さらのしょう)乱(1221年)から800年を記念して、史跡保存会と西尾・岩村友好の会が中心になって、この節目に中世吉良氏800年祭実行委員会を立ち上げた。各地の先行事例を学びながら、実行委員会設立に向けた機運を高めようと、小和田名譽教授を迎えて特別記念講演会を開いた。

800年祭

メモリアルイベント

吉良氏800年祭実行委員会
2021年4月11日(日)
10時～16時
西尾市文化会館大ホール

誕生800年祭準備委員会を立ち上げた。各地の先行事例を学びながら、実行委員会設立に向けた機運を高めようと、小和田名譽教授を迎えて特別記念講演会を開いた。

トランドスエア周年口で、特に戦国時代史研究の第一人者として知られている。大河ドラマの時代考証を数多く担当。公益財団法人日本城郭協会理事も務めている。約1200人収容の会場だが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、定員は800人に減らした。800人入場無料だが、資料代1000円が必要。資料には講演会資料のほか、西尾城御城印のレプリカ、「マンガで行く吉良氏800年の旅」

吉良氏800年祭で、2019年2月の発行以降、さまざまな行事を展開してきた。19年度は、設立総会で、国学院大学講師の平野明夫氏による記念講演「吉良氏と松平氏」を実施。このほか、今川義元生誕500年歴史探訪ツアー、西尾歴史検定ツアー、西尾の完成を記念した特別御城印・御城印の販売をはじめ、西尾歴史検定教本「ふるさと教本(西尾)」に吉良氏の歴史を

10月に実相寺で献茶式

12月に知識問う検定

加えた「歴史教本(西尾)」の発行、企業の若手従業員らに西尾の抹茶を学んでもらう連続講座も行った。吉良氏800年祭の節目となる21年は4月の西尾市寄町下田22の西尾市観光文化振興課「メモリアルイベント」宛ての申し込みは、3月22日必着。定員を超えた場合は抽選になる。問い合わせは、吉良氏800年祭実行委員会事務局の西尾市観光文化振興課(電6512199)か同市文化財課(電661666)へ。

「吉良氏800年の軌跡」が、申し込みは往復はがきで、返信も往復はがきで住所・氏名(個人以上)の申し込みの場合は代表者、住居の住所に申込ペン・住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、西尾市寄町下田22の西尾市観光文化振興課「メモリアルイベント」宛ての申し込みは、3月22日必着。定員を超えた場合は抽選になる。問い合わせは、吉良氏800年祭実行委員会事務局の西尾市観光文化振興課(電6512199)か同市文化財課(電661666)へ。

内装リフォーム工事・カーテン・装飾品
総合室内装飾
インテリア
OKITA

吉良氏とは

現在の西尾市域はかつて吉良荘(さらのしょう)と呼ばれていた。戦国時代中期から戦国時代後期にかけて、吉良氏が治めていた。吉良氏は室町幕府の将軍として知られた。江戸時代から分かれた名族で、江戸時代後期の元禄事件で知られる吉良上野介義典の祖先でもある。京都の貴族勢力と鎌倉幕府の権力が争った承久の乱で、幕府軍の大將の

でもらう連続講座も行った。吉良氏800年祭の節目となる21年は4月の西尾市寄町下田22の西尾市観光文化振興課「メモリアルイベント」宛ての申し込みは、3月22日必着。定員を超えた場合は抽選になる。問い合わせは、吉良氏800年祭実行委員会事務局の西尾市観光文化振興課(電6512199)か同市文化財課(電661666)へ。

唯一の領地となった三河吉良荘で戦国時代を迎えた吉良氏は、駿河今川氏と尾張織田氏のはざまにあつて織田氏に味方して知られた。今川氏によって13代目義安が駿河に閉居した。吉良氏は没落した。江戸幕府を開いた徳川家康は、義安の孫・義弥(よしみつ)を高家として登用し、吉良氏は再興する。

一人として活躍した足利義満が戦後三河国守護、吉良氏地頭に任じられ、西条城・東条城を築くと共に、息子の長良(ながら)は吉良氏西条、義継(よしのり)は吉良氏東条を治めた。長良は初代として、2代目として活躍した。北朝時代に5代目の満貞は美相寺に釈迦三尊像を寄進した。室町幕府を開いた足利尊氏への対応を巡り、満貞と弟・義満の勢力が対立した。吉良氏の系統が西条吉良氏、義満の系統が東条吉良氏に分かれる。西条吉良氏は室町幕府で、将軍の後継候補となる「足利御三家」筆頭という著しく高い家格を遇されたが、足利將軍家の権威低下に加え重要な領地だった浜松が大名同士の争いに巻き込まれたことで、京都の幕政を離れると共に浜松領有権を失った。

でもらう連続講座も行った。吉良氏800年祭の節目となる21年は4月の西尾市寄町下田22の西尾市観光文化振興課「メモリアルイベント」宛ての申し込みは、3月22日必着。定員を超えた場合は抽選になる。問い合わせは、吉良氏800年祭実行委員会事務局の西尾市観光文化振興課(電6512199)か同市文化財課(電661666)へ。